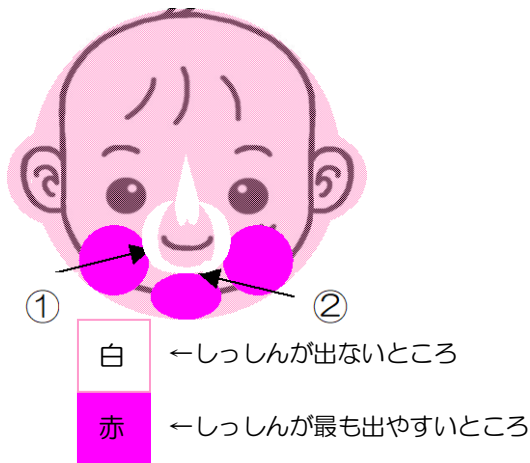


大曲皮膚科ニュース

2006年4月10日号

乳児湿疹のスキンケアとは？



乳児湿疹とは、赤ちゃんのアトピー性皮膚炎のことです。顔に出やすく、じくじくしやすいので、またアトピー性皮膚炎と聞いて、親御さんは驚かれる方が多いのですが、つけ薬に反応しやすく、治りやすい病気です。例えば4ヶ月健診の時点で乳児湿疹である赤ちゃんの1/2は、半年後の10ヶ月健診のときには一旦治っています。また、

一つ一つのしっしんの持続時間は大人のアトピーより短いので、付け薬のヒフへの副作用も少ないですので、それほどご心配のいらないことが多いです。

赤ちゃんのヒフ表面のあぶらの分泌は、お母さんからもらったホルモンが体のなかに残っている影響で、成人よりも多いのですが、その後生後2-3ヶ月までに急速に減って、12-13歳のニキビの出る頃まで少ない状態が続きます。ヒフ表面をおおうあぶらの膜が減ると、ヒフの水分が蒸発するために乾燥して、ひび割れが出来るために刺激物がヒフの内部に入り込んでしっしんが出来ます。このため、乳児湿疹は2-3ヶ月から始まることが多いのです。

☆赤ちゃんのしっしんはなぜほっぺに出る？☆

後の号で触れますが、乳児湿疹の赤ちゃんでも、紙おむつの中のヒフは、尿や便がついたところ以外はしっしんになりにくいことをご存知でした

か？ これは、掻き壊し出来ないことや、一定の適度な湿度が保たれていること、おむつの中の表面は、不織布と呼ばれる非常に肌触りのなめらかな刺激の少ない薄い布であることが関係あると考えられます。また、鼻にもしっしんが出来にくいですが、なぜでしょうか？ これは、乾燥しやすい赤ちゃんですが、鼻だけはあぶらで守られているため、例外的に乾燥しないためです。逆に、まるまるとした赤ちゃんのほっぺやあご先などの出っ張っているところに症状が強いことが多いですが、なぜでしょうか？ これは、顔を拭く時の布や、抱く人の服、寝具との摩擦がヒフ表面のバリアを壊していると考えられており、逆に鼻唇溝（イラストの①）や下くちびるとあご先の間（②）の間にしっしんが出ないのは、引っ込んでいて擦れないためとされています。

このように、乾燥しやすく、敏感な乳児湿疹の赤ちゃんのヒフを、どうケアしたら良いのでしょうか？ ヒフを洗う時は、ご両親の手で洗うのがもっとも刺激が少ないです。拭く時は木綿がよいですが、古くなってごわつくものは避けます。抱く人の服やパジャマは柔らかい木綿かシルクが刺激が少なくよく、よくすすいでから着ましょう。

口周りは、哺乳やよだれでよく汚れますので、きれいに拭かれますと思いますが、そのたびに保湿剤をつけてらっしゃいますか？ 多くのお母さんは、赤ちゃんの顔全体を拭くのは入浴の時だけで、それ以外は哺乳やよだれでよごれた所だけを拭くそうです。入浴後には、乳児湿疹の赤ちゃんだと処方された付け薬や保湿剤をつけと思いますが、よごれた所だけを拭いたあとには何もつけないことが多いようです。赤ちゃんは、ヒフをおおうあぶらの膜がもともと少なく、拭くことでさらにあぶらの膜が減ってしまいます。ステロイドはつける回数が決まっていますが、保湿剤は何回つけても問題がないことが多く、拭いたら必ず保湿剤をつけて乾燥を防ぎましょう。

☆乳児湿疹の食物アレルギーの検査とは？☆

一部の赤ちゃんでは食物アレルギーによりしっしんが悪化しますが、最近、食物アレルギーの診断・治療に関して詳細なガイドラインが出ました。その中で注目されるのは、プリックテスト（ヒフでのアレルギー検査）についての評価です。この検査は、卵・牛乳・小麦などの食べ物の抽出液をヒフに乗せてから、そこを軽く傷つかない程度につつくことで、ヒフの中に少し入れて、赤みが出るかどうかを見るものです。ガイドラインは、「採血によるアレルギー検査と同様に感度が高く、また、採血検査でわからないときでも、プリックテストが陽性になることがある」、と高い評価

を与えています。痛みが無く、体の中に入るアレルギー物質の量はわずかですので、外来で行っても安全性が高い検査です。当院でも行っておりますので、御相談下さい。

☆科学的根拠のはっきりしたアトピーの漢方薬とは？☆

前回お伝えしたように、はっきり有効性があることがわかった漢方の飲み方を日本東洋医学会が推奨していますので、今回は、アトピー性皮膚炎に対する3つの飲み方をご紹介します。

- ・ 虚弱体質の方で、重症のアトピー性皮膚炎の人に、補中益気湯を3ヶ月以上飲んでもらうと、かゆみを抑えるために必要な、ステロイドなどのつけ薬の量が減りました。虚弱体質の方には、つけ薬と併用して、特に長期間飲むことが有効と考えられました。
- ・ 十味敗毒湯は、アトピー性皮膚炎に、有効性の高いかゆみどめの飲み薬であるザジテン®と、同程度の効き目がありました。
- ・ 消風散は、アトピー性皮膚炎に対して、体質と無関係に、よく効きました。

大曲皮膚科 住所：〒061-1272 北広島市大曲末広 1 丁目 2-1 (セリオ 1F) 電話：011-376-2000 記：院長 梅津 修